

学校だより

13号



平成 31 年 3 月 20 日 発行

京都府立向日が丘支援学校

京都府長岡京市井ノ内朝日寺 11

Tel 075-951-8361 Fax 075-951-8362

<http://www.kyoto-be.ne.jp/mukougaoka-s/cms/>



平成 30 年度の終わりに

平成 30 年度も本日が修了式となり、今年度の教育活動の全てを終える日となりました。

保護者の皆様、地域社会の皆様には、今年度も、本校教育への多くの御支援・御協力をいただきましたこと心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

去る 8 日には、高等部卒業証書授与式を挙行し、高等部卒業生 13 名が本校から地域社会へと巣立っていきました。当日は、13 名全員が式の中で、一人一人の成長した姿をしっかりと見せ、学びの証である卒業証書を堂々と手にしてくれました。呼名に対して応える声、顔を上げて見せる表情、胸を張って歩く姿など、一人一人のそれらはみんな違っているのですが、それらの全てがこの日を迎えた喜びや自信に満ちていて、全ての人を感動させてくれました。

今年度、本校は文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業（次期学習指導要領に向けた実践研究）」の研究指定を受け、新しい学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を具体化する授業の在り方について全校で研究を進めてきました。その中でキーワードの一つが「社会貢献」です。「社会貢献」というと、いわゆる生産的な活動や地域清掃などのボランティア活動を思い浮かべる方が多いと思います。では、いわゆる障害が重いと言われる人には「貢献」は難しいのでしょうか。

私たちは、この研究をとおして本校で学ぶ全ての子どもの可能性との関係から、「社会貢献」について考え直す作業を行なってきました。その中で、卒業生が働いている地域の事業所「あらぐさ福社会」職員の濱野亜希子様からは、障害が重いとされる人が、周りの人との関係の中で何らかの役割を得て、生き生きと毎日を送っているとお話を聞かせていただく機会がありました。私たちは、生産性といった尺度だけでは測れない多様な「社会貢献」の形があることを深く学ぶことができました。

「ひとりのこらず しあわせめざし 明るい明日を 作っていこう」

これは、私たちが開校以来大切にしている校歌の一節です。

私たちは、多様な子どもたちの可能性を高めるための「より良い授業」をこれからも追求します。その先に卒業生達の多様な「社会貢献」の姿が地域社会に広がっていくことを願いながら。

京都府立向日が丘支援学校 校長 平岡 克也